

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	ドイツ文化論 I
科目基礎情報					
科目番号	0224		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科目		対象学年	5	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	授業内にプリントを配布する。				
担当教員	石澤 将人				
到達目標					
1 ヨーロッパ古代・中世史の理解 2 ドイツ近世史の理解 3 国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的または歴史的観点から理解できる。 4 ドイツ近代文学の鑑賞 5 哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	ヨーロッパ古代・中世史を十分理解している。		ヨーロッパ古代・中世史の大枠を理解できている。		ヨーロッパ古代・中世史の意義がわからない。
評価項目2	ドイツ近世史を十分理解している。		ドイツ近世史の大枠を理解できている。		ドイツ近世史の意義がわからない。
評価項目3	国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的または歴史的観点から理解できる。		国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、キーワードを理解している。		国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、曖昧な理解しかない。
評価項目4	ドイツ近代文学の鑑賞する力がある。		ドイツ近代文学の基礎知識がある。		ドイツ近代文学について何も知らない。
評価項目5	哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。		哲学者の思想のキーワードを理解している。		哲学者の思想について何も知らない。
評価項目6	今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。		今日の国際的な政治・経済の仕組みの基礎を理解している。		今日の国際的な政治・経済の仕組みの基礎を理解していない。
評価項目7	日本を含む世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的または地理的観点から理解できる。		文化、民族・宗教などが多様であることを理解している。		文化、民族・宗教などの多様性を理解していない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (E)					
教育方法等					
概要	【授業目的】 近現代のドイツの歴史は、わが国の歴史とも密接に関わっている。本授業ではとりわけドイツの分化について理解してもらうために、近代を中心にドイツの文学や思想について、その背景となる歴史も含めて概観していく。 【Course Objectives】 Lerning German history and literature in order to understand its modern culture.				
授業の進め方・方法	【授業方法】 講義が中心となるが、出席者への質問も行う。また、授業時間内に時間を取ってテーマに応じた文学作品の一部を読む。指名して朗読してもらうこともある。講義後にB5一枚程度で各自考察を書いてもらう。 【学習方法】 背景となる世界史の知識については講義中に十分な説明をするつもりであるが、できるだけ予習もしておいてもらいたい。また、参考図書などは授業内で紹介するので、機会を見て目を通してもらいたい。				
注意点	【定期試験の実施方法】 前期・後期とも筆記の期末試験を行う。 【成績の評価方法・評価基準】 前期・後期とも中間試験の代わりにレポートの提出を課し、期末試験と合わせて評価する（70%）。また、授業内に提出してもらう考察を一回につき2点満点で評価し（前期・後期それぞれ30点満点）、これに加える。授業内容を理解しているか、そして自分がそれに関して何を考えたかが書けているかについて到達目標の到達度に基づき評価する。 【履修上の注意】 ドイツ語の知識は特に必要としない。 過去の授業の事柄を質問することがあるので、復習を怠らないこと。 【学生へのメッセージ】 日本とドイツはよく似ているとされることがあります。この評価はある意味では正しく、別の意味ではひどく一面的とも言えます。では日本とドイツはどこが似ていてどこが異なっているのでしょうか。そして、ドイツの歴史や文化を学ぶことから現代日本に生きるみなさんが汲み取れるものはなんでしょうか。この授業ではそれを考えていくこととなりますが、私から提供できるのはみなさんがひとりひとり考えるための材料だけです。単なる知識の一方的な授受ではなく、参加者がみんなで考える授業にしたいと思います。 【教員への連絡先】 研 究 室 B 棟 2 階非常勤講師室				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明	3 国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的または歴史的観点から理解できる。	

		2週	ドイツ古代史	1 ヨーロッパ古代・中世史の理解
		3週	ドイツ中世史1	1 ヨーロッパ古代・中世史の理解
		4週	ドイツ中世史2	1 ヨーロッパ古代・中世史の理解
		5週	ドイツ近世史1	2 ドイツ近世史の理解
		6週	ドイツ近世史2	2 ドイツ近世史の理解
		7週	ドイツ近世史3	2 ドイツ近世史の理解 3 国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的または歴史的観点から理解できる。
		8週	ドイツ啓蒙思想	3 国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的または歴史的観点から理解できる。 5 哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。
	2ndQ	9週	フランス革命とドイツ	3 国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的または歴史的観点から理解できる。 5 哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。
		10週	シュトゥルム・ウント・ドラング	4 ドイツ近代文学の鑑賞
		11週	ドイツ古典主義1	4 ドイツ近代文学の鑑賞 5 哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。
		12週	ドイツ古典主義2	4 ドイツ近代文学の鑑賞 5 哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。
		13週	ロマン主義の文学1	4 ドイツ近代文学の鑑賞 5 哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。
		14週	ロマン主義の文学2	4 ドイツ近代文学の鑑賞 5 哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。
		15週	到達度確認	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0